

執筆者紹介（掲載順）

- 執筆者 ①大学院における所属と職位、②専門分野、
③大学院における主な担当科目、④教育・研究業績、地域貢献などの紹介
- 新谷 理 ①経営情報学研究科 准教授
②会計情報・ファイナンス
③ファイナンスの基礎Ⅰ・Ⅱ、財務分析A、ビジネスデータ分析A、コーポレート・ファイナンス
④最近の主な業績として「個人と機関投資家の株式銘柄選択の違い」『証券アナリストジャーナル』2017年、「配当割引モデルの歴史：その始まりと会計情報による発展」『早稲田商学』2016年
- 野津 創太 ①経営情報学研究科 助教
②経営組織論
③経営組織論、組織行動論、人的資源管理論、経営学総論
④「若年者の就業意識—大企業従業員を対象とした年代間比較—」『研究年報経済学：東北大学紀要』79(1), 101-115 (2023)
「創造性発揮に向けた従業員意識のあり方—組織に対する意識と仕事に対する意識に着目して—」『経営行動科学』34(3), 95-110 (2023)
- 瀧 章次 ①国際人文学部国際交流学科 教授
②西洋古典学
③倫理学概論、根拠への問い—哲学への扉、文学のはじまり—古代ギリシア・ローマの文学、世界の文学、美学芸術学
④ 'Hypotheses on the Textual Transmission of Plato's *Euthydemus*' (『城西国際大学大学院紀要』26 (2022) 67-88) ; 「講義科目「キリスト教政治倫理」の軌跡 (2017-2021年度) と課題」 (『青山スタンダード論集』18 (2023) 73-87) ; (福) 世田谷ボランティア協会 評議員 ; 中野区ラグビー協会理事 (東京都) ; 区政ウォッチ&学ぶ会 (東京都世田谷区)。

- 板井 美佐
- ①人文科学研究科 准教授
 - ②言語学（第二言語習得／対照言語学）、日本語教育、（中日）翻訳教育
 - ③国際日本学研究指導、日本語学特論、日本語教育研究
 - ④〈主要著書〉：（共著）『新編完全攻略問題集読解』語文研究社、2015年。『日本語誤用辞典』スリーエーネットワーク、2010年。〈主要論文〉：（単著）「中国人学習者の日本語学習に対するBELIEFSについて—香港4大学のアンケート調査から—」日本語教育学会日本語教育、2000年。「海外日本語教育における『テープ通信』の可能性」日本語教育学会日本語教育、1999年など。
- 宮 偉
- ①人文科学研究科 教授
 - ②言語文化、日中翻訳
 - ③比較文化研究指導、日本文化特別講義d（言語と文化）、比較文化特別講義a（日中比較）、日中翻訳a（時事・実務）、グローバルコミュニケーション演習
 - ④日中翻訳文化教育協会常務理事。「日中観光翻訳の問題点と解決策」（2018）、「解説系サインにおける文化語彙の日中翻訳」（2020）、「日中観光翻訳におけるアダプテーション—『忠実』への検討を兼ねて—」（2021）、「日中翻訳の特異性—観光資料の日中翻訳に基づいて—」（2022）、「日中翻訳における意味」（2022）、「異文化コミュニケーション行為としての翻訳における翻訳者の在り方」（2023）その他論文、辞書「新日漢大辞典」（2017）、教科書「新経典日本語シリーズ」（2012-2020）などがある。
- 林 千賀
- ①人文科学研究科グローバルコミュニケーション専攻 教授
 - ②中間言語語用論、日本語教育、異文化間コミュニケーション
 - ③日本語教育研究（意味論・語用論）グローバルコミュニケーション演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、国際日本学研究指導
 - ④（共著）『ホテルの日本語 心で伝える接遇コミュニケーション』アスク出版、2023年。「接客場面の『申し訳ございません』の使用実態—クレーム談話の「謝罪」に着目して—」『国際人文学部紀要』p.77-102、2021年。（共著）「ホテル接客業務で必要とされるコミュニケーション能力の評価指標の作成—言語能力のCEFRレベル付け—」『観光ホスピタリティ教育』p.2-16、2023年。地域貢献は、2022年より山武市の外国人児童・生徒のための日本語支援として交流会を林ゼミ生と毎月行っている。2023年1月に山武市教育委員会と城西国際大学とで協定が交わされた。

- 萩原 幸司
- ①人文科学研究科グローバルコミュニケーション専攻 准教授
 - ②言語学、日本語学、日本語教育学
 - ③研究法概説（研究資源探索・論文執筆）、グローバルコミュニケーション基礎論（研究法・調査法）、グローバルコミュニケーション基礎論（翻訳学通訳学）、グローバルコミュニケーション研究（言語学）
 - ④2023年度の論文として、単著、「[学校文法]という新たな文法体系を発見し、既習の文法体系を相対化する—選択科目「日本語の文法」での試み—」、『日本語教育方法研究会誌』Vol.30 No.1: 118-119、共著（筆頭著者）、「オンラインOJAE（Oral Japanese Assessment Europe）道場—CEFR準拠OJAEに基づき、日本語教師が協働鍛錬する拠点—」、『ヨーロッパ日本語教育』26: 136-172等がある。2022年10月よりJLCT外国人日本語能力検定試験の監修を務める。

- 高柳 真理
- ①語学教育センター兼留学生別科 助教
 - ②日本語教育、CLIL
 - ③統合日本語Ⅰ、統合日本語Ⅱ、日本語Ⅰ、別科では、統合日本語中級、日本語N2対策、分野別日本語（進学準備）、文化研修、基礎ゼミを担当
 - ④（単著）「2022年度新設科目『統合日本語』の授業内容を振り返る—CLILとして、講義コマとして—」『城西国際大学紀要』p.117-132, 2023年。（単著）「留学生別科におけるPDCAのためのカリキュラムマップ／ツリー作成と今後の学修成果可視化の検討」『JIU日本語教育実践報告書』p.13-33, 2023年他。（共著）『あなたの弱点が分かる！日本語能力試験N1模試×2』（株）ユニコム、2013年。城西国際大学の日本語教育で使用される教科書作成の取り組み、また、2022年より山武市の外国人児童生徒のための日本語支援、特に日本語アセスメントに関する取り組みがある。

- 佐藤 明子
- ①語学教育センター兼留学生別科 助教
 - ②日本語教育、教育文法
 - ③Fundamental of Japanese、Advanced Japanese Skills、Japanese Project Education、異文化コミュニケーション、統合日本語、日本文化演習、日本文化研修
 - ④多文化共生における情報伝達、及びコミュニケーションのツールとして「やさしい日本語」（2022年度城西国際大学コミュニティカレッジ秋講座）講座の開講や「初級日本語教科書で文法項目はどのように紹介されているのか—継続動詞テイルの『使い方に』注目して—」（第60回日本語教育方法研究会）など、実践研究に取り組んでいる。2022年より山武市の外国人児童生徒のための日本語支援に携わる。

- 本城美和子
- ①語学教育センター兼留学生別科 助教
 - ②日本語教育、多文化共生、CLIL
 - ③日本語基礎、日本語初級、日本語初中級、日本語中級、日本文化演習、日本語試験対策講座、基礎ゼミ
 - ④「中級レベルにおける受容から産出への取り組み—学んだ知識・語彙を意見の理由づけとして使用し話す活動—」JIU日本語教育 実践報告集創刊号（2020年）「CLILと技能別学習を融合させた総合活動—日本語初中級クラスを例に—」JIU日本語教育 実践報告集4号（2023年）など、初級～中級レベルの口頭産出活動の実践研究に取り組んでいる。

- 羽鳥 美有紀
- ①語学教育センター兼留学生別科 助教
 - ②ビジネス日本語、留学生のキャリア形成、ビジネスマナー
 - ③ビジネス日本語
 - ④ [共著]『おもてなしの日本語 心で伝える接遇コミュニケーション 基本編』アスク出版（2020年）。
[単著]「外国人留学生の人材育成における—考察—ホスピタリティ業界に従事する外国人社員の振り返りを通して—」（『城西国際大学大学院紀要第23号、2020年）。『日本で働くための本—就活生から社会人まで—』アスク出版（2021年）など。
[その他] ビジネスマナー講師として日本と中国で活動。主な実施先として、中国遼寧省外事弁公室（LIAONING FOREIGN AFFAIRS OFFICE）などがある。また、2022年より山武市の外国人児童生徒のための日本語支援に携わる。

- 芳賀 浩一
- ①国際人文学部国際文化学科／人文科学研究科 教授
 - ②比較文学、批評理論、現代日本文学
 - ③比較文化研究（比較文学）、比較文化研究指導、英文資料講読、比較文化概論、現代日本の文化、Variable Topics in Culture and Society in Japan等
 - ④最近の主な業績として「文学批評における「人新世」—4つの論点」『城西国際大学大学院紀要』第26号、2023年、1-15頁。「気候変動をめぐる「遅い暴力」と現代文学の射程」『現代思想』2020年3月号、青土社、136-143頁。*The Earth Writes-The Great Earthquake and the Novel in Post3/11 Japan* (Lexington Books, 2019)、『ポスト311小説論—遅い暴力に抗する人新世の思想』水声社、2018年などがある。